小林市長
　ジュニアオーケストラというのは大会やコンクールなどはあるのですか。

河野さん
　年に１回のコンサート（演奏会）に向けての活動になります。大会や競争という面では、吹奏楽部も二極化するのではないかと思います。いわゆる強豪校に入学して大会を目指すパターン、市民楽団のような地域単位のクラブに所属して定期演奏会を目標として音楽を楽しむパターンなどです。

根来さん
　昔は「なんとなく友達と一緒の部活に入る」という方もいたと思うのですが、地域移行すると「自分が本当にやりたいから入る」形になるため、個人化の傾向が強くなりそうですね。今は、YouTubeなどで調べられる時代ですし、音楽をやりたいと思った子があまり金銭的な負担がなく受け入れられるような環境があればと思います。特に、楽器については個人だと購入しなければ始められないという部分があるので、最初の一歩は踏み出しやすい環境が必要なのではないかと思います。

河野さん
　私が教えている所ですと、楽器は学校で持っている所が多いです。管弦楽部がある小学校はヴァイオリンを何台か持っているので、家で練習できなくても、学校に行って学校の楽器だけで練習している子もいます。

小林市長
　まずは、個々の負担を軽減できるような環境づくりが課題ですね。最初の一歩という部分では、文化センターアクロスでは小学生を対象にしたヴァイオリン体験教室などを開催していますが、演奏家としての視点でよいご提案はありますか。

根来さん
　コンサートの後に、子どもたちに本物の楽器を触れる機会を設けるといった形であれば私たちもご協力できるかもしれません。

小林市長
　ファミリーコンサートでは指揮者体験も好評でしたので、楽器体験もできたら面白いかもしれませんね。

芸術の力で未来を紡ぐ

小林市長
　ところで、「文化センター創立」を最終目標に掲げ、音楽でまちを盛り上げたいという若者たちがいたことをご存じでしたか。約４０年前になりますが、青年会議所という団体が鹿窪運動公園を会場に音楽を核とした NOPPE 祭りというイベントを開始し、野外コンサートなどを続けた結果、市民の中で音楽文化の機運が高まり、文化センターアクロスの創立の一助となったという話です。
　実は、私もその青年会議所の一員でして…私にとって音楽を核としたまちづくりというのはそのころから始まっています。現在、音楽とまちづくりという観点では、一般社団法人MUSUBITOが企画して、まちなかで「結のおと」という、お寺や古い酒蔵を会場とした音楽イベントが、まちおこしの一環として開催されています。

石川さん
どんな方が来るのですか。

小林市長
　若者の世代では知られたアーティストも出演していて、後にテレビで拝見して「こんなに有名な方だったの」と驚くこともあります。お客さんとしては、若い方が多くいらっしゃいますね。結城にこんなに若い人がいたのかと思うほどたくさんの方が来ます。
　「結のおと」は一例になりますが、クラシックやジャズも同じように皆さんに親しんでいただけるような音楽のまちを作っていきたいと思っています。

石川さん
　クラシックを聴いたことがない方が、いきなりコンサートに行くというのは結構ハードルが高いと思います。日常生活の中に…例えば、駅や商店街でクラシックが流れているような環境づくりも必要だと思います。その上で、いつも流れている BGM かと思ったら、本物のオーケストラが演奏しているなんてサプライズ的なイベントをしてみるのも面白いと思います。

小林市長
　それは面白いですね。ランチタイムコンサートもお昼休みに市役所に手続きに立ち寄ったら、一流の音楽家が演奏しているのですから、ある意味、サプライズイベントですね。

石川さん
　私たちは人前で弾くのが仕事なので、サプライズであっても、初めて聴いたオーケストラが東京室内管弦楽団で、ファンになっていただけたら互いによい方向に進むのかなと思います。

根来さん
　話題になる音楽祭のように最初から規模をあまり広げなくても、先ほどお話ししたコンサートと楽器体験を併せたイベントを開催するのもよいかと思います。また、音楽の力を使って結城をPRするという切り口なら、結城紬を身につけてコンサートを行ったり、結城市の民話などストーリーに合わせたコンサート、県内の演奏家の皆さんとコラボレーションをしたりなどもできるのではないでしょうか。

中村さん
　東京室内管弦楽団では茨城県の民謡「磯節」をオーケストラにアレンジして演奏したこともあるので、「磯節」でコラボレーションするのも面白いかもしれませんね。

座談会を終えて

小林市長
　教育からまちづくりまで、さまざまな切り口から音楽について話をお聞かせいただきありがとうございました。
　私は可能性を秘めている子どもたちに、さまざまなチャンスを与えたいと思っています。その一つが音楽鑑賞であったり、自然体験であったり、インターネットの世界だけでは分からない、リアルな経験を積ませてあげたいと考えています。
　子どもたちの才能を開花するためのきっかけづくりや選択肢を一つでも多く作ってあげるのが、私たち大人の責務だと思っています。
　また、人口減少が進行している中で、シティプロモーション活動が重要だと考えており、本市が持つポテンシャルをフル活用し、音楽や歴史、結城紬をはじめとする着物など、いろんな分野の結城ファンを増やしたいと考えています。
　その一つに、クラシックを含めた音楽があって、文化センターアクロスについては「中学生の時にコンクールに出場してよい演奏ができた」とか「幼い頃のファミリーコンサートが感動的だった」とか、訪れた人たちの記憶に「アクロス」という記憶が残り、大人になってから「結城に行ってみよう」と思ってくれるような、行政用語でいう「関係人口」となり得るのではないかと思うのです。中村さんがおっしゃっていた「感動の芽」と同様ですね。
　今般、音楽分野におけるサプライズイベントやコラボイベントなどのアイデアもいただき、大変、有意義な対談をさせていただきました。
　音楽によって市民の人生に潤いをもたらすことができるよう、また、音楽がきっかけで「結城に住んでよかった」「結城に行ってみたい」と思ってもらえるようなまちづくりを行っていきたいと思いますので、引き続き、お力添えをお願いします。
　本日は本当にありがとうございました。

東京室内管弦楽団 プロフィール

中村 備生（なかむら そのう）さん
3歳よりヴァイオリンを始め、桐朋学園付属「子供の為の音楽教室」を経て、桐朋学園大学を卒業。東京室内管弦楽団理事、第二ヴァイオリン副首席奏者。

根来 由実（ねごろ ゆみ）さん
湘南白百合学園小・中・高等学校出身。東京藝術大学卒業。2021年に東京室内管弦楽団のコンサートマスターに就任。第一ヴァイオリン奏者。

河野 理恵子（こうの りえこ）さん
東京藝術大学を卒業。神奈川フィルハーモニー管弦楽団の首席奏者を務めた後、多方面のジャンルで幅広く演奏を行っている。東京室内管弦楽団首席ヴィオラ奏者。

石川 理史（いしかわ まさし）さん
米国にてノースショア音楽学校に在籍。帰国後、桐朋学園大学を卒業。コバケンと仲間たちオーケストラ首席チェロ奏者、東京室内管弦楽団チェロ奏者。

結城市出身の演奏者

加藤 美菜子（かとう みなこ）さん
結城中学校出身。
東京室内管弦楽団ヴァイオリン奏者。